

昭和42年，夏期黒部合宿

—第1計画—

山岳技術研究会

今合宿の入山方法として、我々は今迄に経験のなかった所の分散集中方式を採った。その事に関して計画の段階に於て危惧され、又実際行動中には予想もしていなかった場面にも出合ったが、小野氏を含む6名の上級部員と言うメンバー構成上の充実、それに何よりも人の足跡の少ない黒部下廊下周辺を広範囲に踏査出来ると言う事が、我々の意欲を傾けさせたものであると思う。

—形態—

I 小黒部谷隊

小野・宮本

22日東蔵より車道を滝倉谷出合まで入る。これより谷に入り13時55分溯行開始、14時30分モモアセ谷出合でビバーク。13日7時半出発。8時3階棚滝の左岸をまく。曲谷出合9時10分、その先から平抗谷に入り2時乗越に出る。ガスの為西谷への下り口をさがすのに苦勞。濁沢を下りてゆくと西谷へ出る所で濁滝があり、その基部で寝る3時半。24日7時25分、雪溪を下り西谷左俣合流点(8時5分)を過ぎてしばらく行くと兩岸狭まり5段の滝の右岸を下る。谷が南から東へ曲ると中谷出合、10時。小黒部本谷出合で昼食、11時20分～12時半。これより広い河原を1時間ゆくと谷がせばまり屈曲が多くなる。14時20分河原でビバーク。25日7時15分、すぐに滝5米があり左岸より落口に出、右岸に渡る。再び洞原をつめると兩岸とも逆層の滝10米に出る。直登をあきらめザイルを使って

滝の下に右岸から入るルンゼを20米程登って、ブッシュにつっこみ、がむしゃらに登り気味にトラバースし、3本目の小さなルンゼを下って沢芯に立つ、9時20分。そのまま雪溪上を行くと、12時大窓谷出合。この間二つ程大きな滝があるらしい、13時最後の『つめ』にかかり、ガレた濁沢を行くと14時10分池の平小屋に出る。26日、二股。ハシゴ段を経て内蔵之助谷ベースに入る。

II スバリ西稜隊

山内・勝野

7月24日、扇沢よりマヤクボ沢を経てマヤクボのコル。雪をとくして食事、ビバーク。25日、出発6時半大スバリ岳より下降開始。7時。浮石の多い岩稜を2460米附近に懸垂下降で下る約12米。ここより大スバリ沢側のルンゼに入る。9時。初めは雪溪を避け右岸を、雪溪下からは落石を避けるため横列で下る。ルンゼは岩雪崩を起こしそうなガレ場、幅は下部のブッシュに入る迄は平均約7～8米。懸垂下降を2回、約15米。5米2段を交え、地下足袋に替えて大スバリ沢に入る。2時20分。滝、約40米に出合う。3時。右岸に踏跡を見るが途中で消え、石に大きな壁を見る所からルンゼつたいに大スバリ沢に入り、沢筋にビバーク。4時20分。26日、出発8時。湖岸9時20分。水際よりブッシュの斜面に取付く。倒木の多い急斜面を水面より20～100米

米程度上り下りしながらダムに向う。途中急なルンゼを7〜8本草を掴んでトラバース。最後の支越えと6時。ダム迄は爆破されたガレ場でへずり不可能と判断、舟に乗せて頂く。ダム6時半、ダム下7時半、ビバーク。27日、朝遅く内蔵之助谷出合に向う。

Ⅲ 御前谷隊

藤原・太田

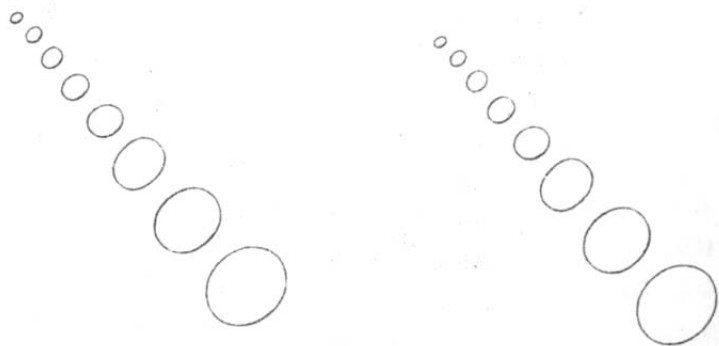
7月24日、トラックで小又川岸まで。右岸に渡りビバーク。25日、出発6時40分。7時半出合。雪溪は少し。10時50分上の出合、雪溪上で昼食。14時20分最後の出合、右側を採る。かなりの急斜でガスの中を登る。大日岳稜線16時10分。大日、奥大日のコルの岩小屋でビバーク。26日、8時出発。乗越11時10分。室堂13時半。一越15時。雄山15時45分。雄山

御前谷稜線にビバーク、16時15分。27日、御前谷は雄山直下まで残雪があり、シリセードで下る9時半出合、右岸、左岸とも道らしきものはない。10時35分滝に出て偵察の後、左岸のタンボ平側を一時間半程ブッシュをこいだが、ならず引返す。15時内蔵之助谷を下る事にし、雄山へ向う。途中左岸の大きいルンゼをつめたがブッシュで歩行困難。18時45分雪溪の消えた所でビバーク。28日7時半出発、雄山11時10分。13時真砂沢カール。17時内蔵之助谷出合着。

Ⅳ 黒部本流隊

杉本・四方・吉村

宇奈月より樽平を経て水平道路を阿曾原の水カ取入口に17時着、テントを張る。25日、8字峡、十字峡を経て13時内蔵之助谷出合に着く。



7月30日

起床 5:50 バンゴ段乗越 9:50

Ⅱ中のガビン沢

中のガビン沢は、第2尾根と第3尾根の間に入りこんでいる、急峻な沢である。

取付の20米の渦滝は右岸より取りついていく。ここからは連続した渦滝で、快適なフリークライミング。第2尾根フランケを右に見ながら、沢は扇状に広がる。左よりにつめると壁の中央に出る。右肩の洞穴テラスにトラヴァースしてブッシュを漕いで尾根に出ると、第3尾根 P_1 であった。ここでビヴァーク。

翌日、 P_1 と南尾根のコルよりトラヴァースして P^5 の下に出る。40米の懸垂で P_3 ルンゼに入る。急な草付を下った滝のところから再び40米の懸垂を行う。後20分程で内蔵助谷に下り立つ。

メンバー 杉本、吉村

コースタイム

7月29日

取付7:00 第3尾根 P^1 (ビヴァーク)18:00

30日

出発6:00 南尾根 P^5 7:00

内蔵助手 10:20

Ⅲ広河原中央ルンゼ

広河原中央ルンゼは、その名の通り、別山カベ尾根から、広河原の左岸におちているルンゼである。最初は水流のあるガレに行く。

P_1 (8米)、 P_2 (40米)、 P_3 (30米)、を共にフリークライムで快適に行く。それより細いガレ場を100米程行くと P_4 (50米)があり、これを直登して落口に出る。 P_5 (20米)はチムニー状の滝で、左カンテに行く。それからガレ場を50米程行き、右手の尾根に逃げるが、出口はかぶり気味でルート中一番悪い。下降は尾根通しに行う。途中大きなギャップがあり北側のルンゼを下りトラヴァースして尾根に戻る。

P_3 に降り、そこより懸垂下降をまじえて取付点に戻る。

メンバー 宮本、山内

コースタイム

8月7日

取付 7:30 P_4 落口 8:30

尾根に出る9:40 取付 11:55

ふじわら・さとし(工学部学生)

